

令和7年度 小平市立小平第四小学校 学校評価報告書

学校教育目標 教育基本法等の諸法規に則り、「他者と豊かにかかわり、知性を働かせ、明日を切り拓く子ども」の育成を図る。 ○健康な子 ◎考える子 ○やさしい子 ○おこなう子

目指す学校像(ビジョン) 『みんなの笑顔が輝く学校』（学ぶことに喜びを感じられる学校、他を思いやり心と心が通い合う学校、励まし合い助け合っているみんなの笑顔が輝く学校）

- 【目指す学校像】 「健康な子：心身ともに健康で、毎日の生活を充実させることができる子」 「考える子：課題解決に向けて、主体的・対話的で深い学びができる子」
- 【目指す児童・生徒像】 「やさしい子：自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子」 「おこなう子：目標をもち、主体的に行動することができる子」
- 【目指す教員像】 「明るく、元気で前向きな教師」「授業実践力等を磨くために、絶えず自己研鑽に励む教師」「児童への愛情を十分に注ぎ、職務を全うできる教師」「同僚、保護者、地域と協働し、児童のために全力を発揮できる教師」

前年度までの学校経営上の成果と課題

(成果) 全員参加型の授業改善を進めたことで児童の学習意欲やスキルを高めた。生活指導についても、教員の問題発見力や組織的対応力が高まり、児童が落ち着いて集団生活を送ることができるようになった。
(課題) 学力の定着の二極化傾向が見られ、一定の児童の学力の底上げが課題である。主体的・対話的で深い学びの学習指導及び個に応じた指導(補習・家庭学習)の充実が必要である。

	具体的方策	第1回評価		指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	四小検定や読書に親しむ習慣を身に付けさせる取組、週1回の補習、家庭学習等を通して個の状況に応じた学習指導の工夫に取り組み、基礎学力の向上を図る。	2	4	学級集団内の学力分布をしっかりと把握したうえで、まずは補習や家庭学習の習慣化を図る。校内研究の取組を踏まえた「わかる」「楽しい」授業を常に念頭に置き、確かな学力の定着をさせるための方策を考えていく。	3	4	日常的な授業への取組(教科担任制・交換授業等)を組織的に行っている。学力調査の分析を踏まえた取組を確実に実行してほしい。	各学年概ね学期を追うごとに意欲を高めて学習に臨む児童が増えた。引き続き基礎基本の定着と個別最適な学習指導をあり方を検討し、実践していく。
	校内研究では国語の学習指導の工夫を中軸に据え、授業のユニバーサルデザインを追求する。また、教科担任制や交換授業のシステムを構築し、自己研鑽に励む。校外の研修で得た内容は、校内に還元・共有する。	3	4	現研究主題の取組として、まとめの年となる。授業UDの視点を踏まえた実践の重要性を踏まえ、授業力を高めていくことを中心に据えて研究に取り組む。	4	3		研究を通して、授業UDの視点を持った授業づくりの必要性や有効性を学ぶことができた。次年度は、児童の実態を検証、再考し、新たな主題、教科で研究を行っていく。
健全育成	「四小スタンダード」や「月目標」についての自己評価を行い、振り返りを次に生かす主体的な取組を促す。	3	4	「四小スタンダード」について、学級ごとに差が出ないように共有と確認を適宜実施する。「月目標」の振り返りを月半ばに一度行い、意欲付けの機会とする。	4	4	児童の実態を踏まえた内容を考察し、「四小スタンダード」を徹底することを、引き続き継続していただきたい。いじめに関して、引き続き情報を共有していきたい。	児童の実態に即しているか検証を加えながら、「四小スタンダード」を更新していく。特に学期始めは重点的に指導し、指導に迷ったら必ずスタンダードに立ち返り、継続的に指導する意識を教員ももつ。
	全教職員でいじめ防止基本方針を理解し、「いじめ見逃し0」を重視する。いじめ防止授業及び計画的ないじめ調査を行い、実態を把握して指導に生かす。保護者・地域と連携しながら、いじめ防止対策を進める。	3	3	「報告・連絡・相談」を怠らず、常にアンテナを高く張って、児童の様子に気を配る。いじめ案件が発生したら、いじめ防止委員を中心に組織として対応する。いじめ授業の実践と定期的ないじめ調査を行い、未然防止、早期解決に努める。	4	3		「いじめ防止基本方針」に則った指導を日常的に行う意識を高める。毎週火曜日の生活指導夕会で、日常的に学級の様子や、特別支援教室、スクールカウンセラーからの情報提供、学級の様子との共有を行い、児童理解やいじめ等の早期発見に努める。
健康・体力保持向上	目標値を設定して体力テストに取り組んだり、業間体育等の体育的活動を通して運動に親しむ取組を充実させたりする	3	4	運動の機会を増やす目的で、スポーツタイムを全校で実施してきた。熱中症対策等による延期や中止が多かった。児童が継続的に体を動かすことができるように、実施方法を工夫する。	3	4	試行錯誤をしながら児童の体力向上を図る取り組みを進めていることがうかがえる。地域のスポーツ団体や習いごと等以外でも積極的に体を動かし、体力向上につながる取り組みを行ってほしい。	スポーツタイムを継続的に実施できるように内容や実施時期等を工夫する。「運動の日常化」を図るために、その方法や時間などをより具体的に検討する。
	保健の授業や保健便りを活用して、自己の健康について振り返り、生活の中で具体的に生かす習慣を身に付けさせる。	3	4	保健の授業や保健便り、計測時の保健指導等を活用して、健康的な生活の仕方への意識付けを行った。長期休業明けに「生活リズム週間」を設定することで、スムーズな学校生活の再開につながった。	4	4		養護教諭や栄養士と連携して授業や取組を進めることで、安全・安心で健康的な生活の良さに目を向けることができた。今後は家庭への協力も仰ぎながら日常的に実践できるようにする。
地域連携教育の推進	地域教育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーや地域教育ボランティアを意図的・計画的に活用し、教育活動をより豊かなものにする。	3	3	地域教育コーディネーターと連携し、各学年で、地域の自然や人材を生かした授業を計画的に行うことができています。	4	4	ゲストティーチャーや地域人材が参画した学習活動は本校の特色であり、充実したものである。今後、新たな人材資源の発掘が必要になってくる。	ゲストティーチャーや地域教育ボランティアを招いた授業を、各学年で行った。体験的な活動を実施したことで、学びの質が深まった。次年度につながるように計画を立て、継続的に実施できるようにする。
	学校支援チーム(ナラミスタッフ・学童農園)との連携教育活動を通して、体験的な学習や本物に触れる機会を充実させ、児童の興味・関心を高め、知識の習得を図る。	3	3	学校支援チーム(ナラミスタッフ・学童農園)と連携して、体験的な学習が、継続的に実施できている。	4	4		各学年に応じた体験的な学習が実施できた。今後も継続的に実施できるように、計画を引き継ぎ、学校支援チームと連携を取っていく。
教職員業務の働き方改善	提案文書配付や共有すべき連絡事項は原則デジタルを活用することで、会議時間と勤務時間の短縮し、業務の改善を図る。(無くす・減らす)	3	4	校務支援システムを活用した事前提案や周知ができています。デジタル教科書やタブレット型端末を活用した授業展開を工夫を継続的にを行い、全教員で共有するようにしている。	3	3	様々な取組を行い、教員の働き方改革に取り組んでいる様子がうかがえる。さらなる働き方改革の推進、教員が本質的業務に専念できるように、方策を考える必要性を感じる。	ICT機器やシステムの活用が業務の効率化につながっている。働き方改革の本質を見極め、必要な時間の確保につながるよう、今後も業務改善に努める。
	SSSを活用したり、校務分掌を精査したり、教科担任や交換授業を取り入れたりする等して、業務改善を図る。(変える)	4	4	SSSとの連携は浸透し、日常的に行われている。高学年・中学年では教科担任制や交換授業の取組が進んだ。急な予定変更等の対応に課題が残る。	4	3		教科担任制や交換授業の取組が日常化しつつある。それを根幹に据えた学習指導や行事予定の計画を立てていく必要がある。